

# 中国酒を飲みながら漢詩を楽しもう会

4月26日(土)午後2時～5時 ドーンセンター

島根大学 蔡毅助教授・宝酒造(株) 高野嘉夫部長



うららか春の土曜日、私達に馴染みがない、珍しい中国酒について、宝酒(株)商品マーケティング部の高野部長より解説いただき、そして中国音楽をBGMに、その中国酒にまつわる漢詩について島根大学の蔡助教授に紹介いただきながら杯を重ねた一時を楽しみました。

中国酒には①蒸留酒の白酒(茅台酒・二鍋頭)②醸造酒の黄酒(紹興酒・福建老酒)果酒(夜光杯・通化)・ビール(青島・雪花)③配製酒の薬酒(十全補酒・桂花陳酒)に分類される。中国酒の生産量も多く、近年特にビールが伸び、世界第二位の量であるが、高価な為特に沿海部で多く飲まれているそうである。全て国有での企業で作られており、全国評価会議が開かれ八大名酒に、白酒では汾酒(山西省)茅台酒(貴州省)西鳳酒(陝西省)大曲酒(四川省)黄酒では紹興加飯酒(浙江省)果酒では玫瑰香紅葡萄酒(山東省)味美思(山東省)金獎白蘭地(山東省)が選出されました。他にも全国名酒等種々のコンクールを開いてデザインも容器もよくお酒は品質の良いものを作ろうとしている。又米、大麦、コーリヤンなどの主原料が不足した時に、主食を原料としない酒、ワインを広めようとした。旧満州地域にブドウができる為、麗思林(リースーグ)白比諾(バカデー)解百納(カバルネ)等フランスやドイツの最優のブドウの品種を輸入し栽培。

ここで**長城葡萄酒(長城ワイン)**の試飲が始まりました。中国のワインに甜酒(スイートワイン)が多く、全国名酒(18種)が選出されたものいづれも甜酒。

それに対し干酒(ドライワイン)が北京、大連、上海では需要も拡大している。この長城ワインも干酒、ドライワインだということだが、軽いさっぱりとした甘さがある様に感じた。果香酒香天下第一というコピーがあり、果香はアロマ(果実自体の香り)、酒香はブーケ(発酵によってできた酒の香り)を表し、ワインを表現する時によく使われるアロマが強いとかブーケが強いという言葉が判りやすく表現されている。

なごやかに長城ワインを飲みながら蔡先生による漢詩の講義が伍芳の中国古箏の調べにのって始まります。漢詩をまず中国語で読み、次に日本語読み、そして解説いただきました。

## 涼州詞 王翰

**葡萄美酒夜光杯 葡萄の美酒 夜光の杯**  
**欲飲琵琶馬上催 飲まんと欲すれば琵琶は馬上に催す**

**酔臥沙場君莫笑 酔って沙場に臥するも君笑う莫かれ**  
**古来征戦幾人回 古来 征戦 幾人か回る**

「夜光の杯に盛った葡萄のうまい酒  
飲もうとすれば馬上から 杯を勧める琵琶の調べ  
この辺地の砂に酔いつぶれても君笑ってくれるな  
昔から戦さに出で立った者が、幾人生きて帰れた事か」

夜光の杯とは、黒い玉で作られ、現物が会場に用意されており、ひんやりとした感触で白ワインを入れて飲むとさぞかしと思われるような杯でした。ワインはヨーロッパのものという認識があるのですが、唐の時代に書かれたこの詩にも描かれており古来より中国でもワインが造られ愛飲していた歴史があることがわかります。

見渡す限りの砂漠が広がる中で琵琶を弾く美しい遊女が、これから戦に行く兵士に死への恐怖を紛らわす為にワインを勧める様子を彷彿させる詞です。この詩の大切な部分＝眼は「酔臥沙場」で、作者は死は恐れていない。今は一杯の酒を飲み、後は敵と戦うだけ。優美に砂漠の一夜の風景を描くとともに、兵士の微妙な気持ちを描いています。

次に**汾酒**。コーリヤンを原料とし麴で発酵、蒸留した無職透明のお酒で少しウォッカに似た味わいでアルコール度53度の強いお酒。この汾酒に氷砂糖と竹葉他の薬材を配合した淡い緑色の酒が**竹葉青酒**で、少し青臭く甘いリキュールの様な味で、健胃、殺菌効果があるそうです。この2種類とも陶器に詰められ、汾酒には梅の花、竹葉青酒には竹林の絵柄が描かれ、置物にも良いと好評。

## 清明 杜牧

**清明時節雨紛紛 清明の時節 雨紛紛**

**路上行人欲断魂 路上の行人 魂を断たんと欲す**

**借問酒家何処有 借問す 酒家は何れの処にか有ると**

**牧童遥指杏花村 牧童遙かに指さす 杏花の村**

「清明の時節というに 雨しとしと 行く人の魂も 消え入るばかり  
酒の家いづこなりやと 言問へば 牛曳く童指さしぬ 杏花咲く村」

この詩では、旧暦3月上旬、西暦の4月4～6日に1日、墓参りの日の風景が描かれています。清明節の頃、春雨がよく降り、旅人の胸に耐え難い郷愁の念が広がり、お酒でも飲まないしと落ち着かない。春雨の降る中を牛を引く牧童に、居酒屋は何処かと尋ねると、あそこにあると黙って指差すという風景が描かれています。この詩の眼は、「牧童遥指」で何も言わないでさっと指差す少年の仕草。何気ない動作のその中に農村らしいのんびりした田舎の風情や、しとしと降る春雨の中に白い杏の花に霞む村に、酒屋を示す青いぼりがはためいている・・・そんな一幅の絵画の様な早春の情景が参加者一人一人の頭の中に浮かび広がっていきます。イメージーションを掻き立てる漢詩の不思議な力を感じました。

**杜康酒**。中国酒の始祖、杜康の名を冠する白酒で、無色透明、アルコール度は40～60度、原料は紅いコーリヤンと米をベースにした麴で造られ、濃香型のタイプで汾酒よりももっと強い感じ。一口飲むといろんな香りがたち、強烈ではあるが不思議な味がじんわりと広がりました。(私はこのお酒が一番気に入りました。素敵なお酒の扇形の翡翠色の陶器に入っていました、栓を開けるのに一苦労。)

神戸の栄康(株)の平野社長が前出の夜光杯と共に杜康の時代の酒の盃である酌(故宮博物館で販売されていたレプリカ)を持って着てくださり見せていただきました。非常に凝った造りの青銅製かと思える思える盃で、王が戦争功労者に酌を与え、その酌で杜康酒を乾杯し、情状酌量

とはいう語源はここから出たのではないか。日本の杜氏の語源も、中国のお酒の神様であるこの杜康からきているのではないかということでした。

### 短歌行 曹操

**対酒当歌** 酒に対して当に歌うべし

**人生幾何** 人生幾何ぞ

**譬如朝露** 譬えは如し

**去日苦多** 去る日々は苦はだ多し

**慨当以慷** 概しく当に以て心を慷らすべし

**憂思難忘** 憂わしき思いは忘れが難ければなり

**何以解憂** 何を以てか憂いを解かん

**唯有杜康** 唯だ杜康のつくりしもの有り

酒は飲むべし 歌うべし 人の生命は 果かなきものよ  
朝露に似し この生命 過ぎ行く日々は 徒なりき  
高ぶる心 歌に託すも 苦しき想い 消えやらず  
この憂い 如何に解くべき 杜康よりほかに何かある

日本人の好きな中国の書物の一つ「三国志」に登場する曹操。日本人には諸葛孔明に次いで人気のある曹操だが、中国では「説到曹操、曹操就到」（曹操の話をする、曹操が現れる。＝噂をすれば影）という諺にでるほど、自分の事を話しているのではないかと、猜疑心をもって耳をそばだてるといふ陰湿な男と評価は良くないそうです。人間は自分がいつまで生きるのかを、誰も知りません。曹操の時代、上層階級の平均寿命が55年、労働者層は30～40年だと言われています。曹操は65才で亡くなっていますから、現在の感覚でいうと90才位長生きしたという感じでしょう。しかし、彼は人生は朝露の様に短いもので、まるで一瞬の川の流れの様にあっという間に消え去ってしまう。人生は移ろいやすいので、目の前にある事をきっちりと捕まえておかないと、逃げてしまう。本当に止まることなく心の中に流れ込む憂いをすっきり忘れてしまうことはとても難しい。この憂いをどうして解けばよいのか、そうだ杜康の作った酒を飲むのが一番よい。他に何かあるというのか。中国では、人間の憂いをお酒で退治するという言い方があるそうです。

**紹興酒**。浙江省紹興市で造られる老酒にだけ与えられる固有の名称、アルコール度16～18度、もち米と麦の麴を原料に鑑湖の清水をもちいて醸造し、カメで約3年上製されます。アルコール度の高い良いお酒が多い中国酒の中で、日本人に最も愛飲されている馴染深いお酒ではないでしょうか。よく中華料理店で見かける彩色を施しカメ、花や彫刻が非常に美しく描かている為に、紹興花彫酒と呼ばれています。日本への中国酒輸入量の内76%が黄酒、紹興酒が多く大半を宝酒造が扱っています。紹興の地では、女の子が誕生すると紹興酒を造りカメに詰め自宅の庭に埋めます。やがてその娘が嫁ぐ日、地中よりカメを掘り出し封を開けられ、祝いの宴の振舞い酒として披露されました。古来より目出度い席にはお酒が欠かせないものですが、紹興酒は両親の愛情と共に生まれた新郎新婦への何よりもはなむけの贈り物であったでしょう。末永く幸せでありますようにと・・・。

今回の講義では、特別に栄康(株)の平野社長より紹興酒の9リットルの寄贈いただき、珍しいカメ開きを披露していただきました。カメは真っ白な石膏で塗り固められ、封をしてカメの口の所をノミで開けるのですが、これが一般に実演されるのは、神戸の南京街の春節祭の時だけということで、参加者が固唾を飲んで見守る中、コツコツと明るい音と共に石膏が割られていきます。（元来は土の中で貯蔵するのですが、土だと検疫上問題になるので輸出用に石膏で密閉している）平野社長は「開封するまで、品質がどのよ

うだか判らない。酸化していたらどうしようとドキドキするんですよ」とおっしゃいながら作業が進みます。「料理店に納入する時には、開封し試飲して品質を確かめてからお届けします」石膏を取り除くと、竹の皮、その下に油紙、そして素焼きの蓋があり、その下に中国では殺菌効果があると思われる蓮の葉が姿を表しました。その下には、眠りから醒めた紹興酒がたっぷりと波打っています。早速試飲、まったくとした味。5年物だろうということで、ご相伴。先に試飲したお酒がどれもアルコール度が高かったため、封を開けたばかりの紹興酒は喉に優しく香り豊かだと好評でした。それから、他にも珍しいお酒を試飲させていただきました。CMでよく宣伝している日本産の桂花陳酒とは異なり、中国産の桂花陳酒は、杏の香りがほのかに口に広がる上品な甘さでした。又男性に人気のあった雄と雌のつがいのトカゲを漬け込んだ薬酒や、金獎ブランド、田中角栄が飲んで有名になった茅台酒。更に、二千年前の遺跡から発掘されたお酒を再現した劉伶醉など珍しいお酒を満喫させていただきました。（飲みきれなかったお酒は参加者のお土産になりました）

### 客中作 李白

**蘭陵美酒鬱金香** 蘭陵の美酒 鬱金香

**玉碗盛来琥珀光** 玉碗 盛り来る琥珀の光

**但使主人能醉客** 但だ主人をして能く客を酔はしめば

**不知何处是他郷** 知らず 何れの処か是他郷

蘭陵の美酒は鬱金の香りがしており 玉の碗に盛ると琥珀の色に輝く  
ただ主人が主客が酒客を酔わせてくれれば  
どこにいても他国だと思えない

山東省の蘭陵に自生する香草で作った香料をお酒にいれると豊潤な香りがする。それを玉の碗に盛ると琥珀の色に輝く。そのような美味しいお酒を飲んで、ただ主人が自分を酔わせてくれれば、何処にいても他国とは思えない。日本文化と紹興酒の関係について、3月1日、人々が水際に集まり上流から杯を流して、その杯を取り詩を作る一曲水の宴は（中国ではその酒に紹興酒が使われた）中国から伝来されたもので、平安時代の貴族の間で年中行事として行われたそうです。

### 送元二使安西 王維

**渭城朝雨邑輕塵** 渭城の朝雨 輕塵を邑し

**客舍青青柳色新** 客舎 青青 柳色新たなり

**勸君更尽一杯酒** 君に勸む 更に尽くせ 一杯の酒

**西出陽関無故人** 西のかた陽関を出づれば故人無からん

渭城の朝の雨は舞い立ちかける塵をおさえ  
旅館の柳は青青と新芽も鮮やかだ さあ、君。もう一杯飲み干したまえ  
これから西へ 陽関を出たならもう知り人もないのだよ。

朝の雨が塵を押さえて新緑の柳が青青と鮮やかな中、友の別れに柳の一枝を折って手渡す。別れの杯を飲み干したらもう行きたまえ。西へ陽関を出たならもう知る人もないのだから、という詩を、中国の吟詩のテープを聞きました。日本の詩吟とは全く異なり、鼻歌の様に力みが無く、当にお酒を飲んで心待ち良く歌を吟じているという感じで、中国語で意味は分かりませんが、聞き手もリラックスさせてしまう感じの大きな感じでした。

最後に蔡助教から中国に「嗜好品として、お茶は有益無害、お酒は有益有害、煙草は無益有害だ」という諺があると講座を結ばれました。（穴田由佳里）